

平成27年度第2回 海岸工学委員会幹事会 議事録

開催日時：平成28年4月8日（金）14:00～17:00

開催場所：土木学会（東京，四ツ谷），A会議室

出席者：青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松，高橋，柿沼の各小委員長，北野主査，荒木，中山の各副小委員長，小笠原，西畑（片山代理），桐，中川（栗山代理），諏訪，武若，田島，松山の各委員兼幹事，原田幹事，水谷委員

資料：

- ・2015年度第2回海岸工学委員会幹事会次第（資料1）
- ・パワーポイント資料（資料2）

■委員の交代

池谷委員（鹿島）→ 福山委員（鹿島）

土木学会論文集B編集小委員：陸田前委員→山城委員兼幹事

■前回議事録の確認

- ・WEBに公開済み

■議事前報告（佐々木幹事長）

1. 第62回海岸工学講演会報告

東京開催ということもあり，記帳者数が767名と多かった（2003中央大800名，2002釧路780名に次ぐ参加者数）が，懇親会参加者は114名で若干少なめだった。

2. 全国大会研究討論会について

9月9日（金）13:00～15:00，水谷委員，小竹委員から地盤～波連携の企画を提案している。

3. H28年度土木学会重点研究課題助成

減災アセスメント小委員会（海岸工学委員会側の共同小委員長：岡安副委員長）からの提案課題が平成27年度に引き続き採択された。

■審議事項

1. 海岸工学論文集第63巻応募論文審査について（森小委員長，原田副小委員長，佐々木幹事長）

(1) 応募状況

- ・投稿論文数：373編（和文：355，英文：18，昨年度より若干減）
 - 内訳：通常論文：367（和文：349，英文：18），企画A（論文あり）：4（和文），企画B（論文なし）：2（和文）
- ・アブストラクトに6頁の本論文原稿を提出した投稿について

→ 不採択となった。情報量に差が出ることで査読が公平でなくなるため特別な配慮は行わないこととし、本件のみ投稿者には理由を通知することとした。

→ 他分野の投稿者にも誤解のないよう、募集要項等の文章を改善することとした。

(2) 第1段審査の結果について

- ・ 110名で査読（17件@1名）を行った。編集小委員会委員には委嘱状を発送することとした。
- ・ 査読者の査読平均点は例年とほぼ同様であるが、査読平均点の目安を大きく逸脱している査読者や、1, 2点を付けた際に理由を記入していない査読者が（例年通り）散見されるので、告知文をわかりやすく修正する等注意喚起することとした。
- ・ 企画セッションB（論文なし）の2編は採択に十分な得点であり、採択とした。
- ・ 通常論文および企画A（論文あり）の371編は同一の扱いとし、18点以上が240編、17点が65編あり、17点以上の305編が本論文へ進むこととした。
- ・ 従来は300編に抑えていたが、65編から一部を不採択とするのが極めて困難なため、原案の17点以上を採択とすることを承認したが、来年度以降300編に抑える方策等について継続協議とした。
- ・ 採択率82.3%（最高ではないが、高め）で、分野別の採択数に差はなかった。

(3) 海岸工学講演会における発表割当可能数の見直しについて

- ・ 土論B2（海岸工学）通常号からの発表希望が3編、CEJからの発表希望が1編の計4編の講演希望があった。
- ・ 仮に、本論文305編、企画B（論文なし）2編、通常号+CEJ講演のみ4編、企画招待2編（未定）とすると、313編の発表割り当てが必要となる。3日目を1時間延ばすと325編の発表が可能だが、企画セッションの時間帯に例年通り4セッション減とすると、309編しか発表枠がない。この場合は初日の朝を20分前倒しする等して、不足する4編分確保することを承認した。

(4) 著者負担金について

- ・ 著者負担金は36,000円（DVDのみ3,000円、ともに昨年度と同じ）を見込んでいる。
- ・ 著者負担金の未払いが毎年4件程度（約15万円）あり、常習者もいることが報告され、委員会として督促を支援することとした。また、未払いは、請求先が投稿時に学生で請求時に卒業しているケースが多いので、共著者の責任教員等に督促する等、回収に努めることとした。
- ・ 今後の未払い対策として、論文投稿システムへの登録者は正会員に限る、請求書送付先欄を新設する等、論文投稿システムの改良を含め、海洋開発委員会と連携して検討することとした。

(5) 論文投稿システムについて

- ・ 特別セッションの入力およびcec@jsce.or.jpあての問い合わせでトラブルがあった（現在は修正済み）ことが報告された。
- ・ 論文PDF, TXTファイル, 明細票をWebでアップロードできるようにシステムを改変し、将来的に電子媒体（DVD）及び紙媒体の提出を廃止する方針が示され、これを承認した。ただし、本年度は、暫定的に以下の措置をとることとした。

○明細票は、csvファイルのアップロード、Web入力のいずれかを選択できること

○紙媒体（業者の確認用）は、現状どおり郵送すること

- ・ 明細票のWeb入力化は、XLM化、論文PDFへの論文番号等の追記、J-Stageへの直接アップロード、が可能になる等のメリットがある。一方、紙媒体は印刷会社が論文PDFの書式チェック（目視で）に使用しており、紙媒体が無くなれば著者によるPDFのフォーマットチェックを厳格にする必要があるため、紙媒体の必要性の有無（紙媒体とPDFが異なっていたケースの論文数等）を検証することとした。

2. 海岸工学論文集の将来検討について（北野主査）

- ・ 著者原稿の完成度が低すぎるものはなかったが、業者がWord原稿を編集したものは10件程度あったことが報告された。
- ・ 組版の廃止により生じた余裕スケジュール（2週間）は、第2段原稿の論文執筆期間および第2段原稿の査読期間をそれぞれ1週間長く配分した。
- ・ 要旨投稿の締切を遅らせる要望もあるが、査読割り振り担当者の学務等の関係で困難な事情が説明された。
- ・ 企業広告は、昨年度は要望に応じられなかったものがあったので、本年度は広告を6枠に増やすこととした。
- ・ 当日販売版はUSBを作る予定であり、五洋建設（株）に協力依頼していることが報告された。

3. 海岸工学講演会企画セッションについて

(1) 第63回海岸工学講演会企画セッション（重松小委員長）

テーマ：東日本大震災と環境

オーガナイザー：重松，日向

応募状況：A 企画セッションA（本論文あり）4編（最大見込み）

B 企画セッションB（アブストラクト審査のみ）2編

C 一般の応募論文から（本論文あり）

招待講演者：4つの話題を挙げ、検討中

- ・ 招待講演者の旅費支給について、第1回の2014年度は対象なしだったが、昨年度は1名支給した。非会員は旅費支給を前提とするが、会員には予算が厳しいことを伝えた上で、旅費支給希望の有無を聞き、それを踏まえて検討することとした。

(2) 第64回海岸工学講演会企画セッションについて（佐々木幹事長）

- ・ 6月委員会を目処に検討することとした。

4. 第63回海岸工学講演会（大阪）の準備状況（荒木副小委員長）

実行委員会：間瀬〔実行委員長〕（京大），荒木〔幹事〕（阪大），後藤・森・原田・五十里（京大），重松・遠藤（大阪市立大），高橋・安田（関西大），内山（神戸大），柿木（神戸高専），川崎（（株）ハイドロソフト），青木（阪大）

後援：近畿地方整備局，大阪府，大阪市に依頼手続きを進める

期間：2016年11月16日（水）～18日（金）

講演会：大阪大学中之島センター（北区中之島）

懇親会：11月17日（木） 18:30～20:30（または19:00～21:00）

会場：中之島ソーシャルイートアウェイク（大阪市中央公会堂内，建物内及び周辺は禁煙）

会費：7,000円（予定）

見学会：Aコース：大阪港・神戸港（予定）

Bコース：津波・高潮ステーションおよび安治川水門（予定）

5. 第63回海岸工学講演会前日シンポジウムについて

- ・ 津波小委員会で実施を予定している（高橋小委員長）

6. 第64・65回海岸工学講演会について

- (1) 第64回海岸工学講演会（札幌）の準備状況（渡部小委員長）

実行委員会：山下〔実行委員長〕（北大），渡部・猿渡（北大），宮武（函館高専），中島・木岡・大塚（寒地土研）

後援（予定）：北海道開発局，寒地港湾研究技術センター，北海道，札幌市

日程：2017年10月25日（水）～27日（金）

会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター（JR札幌駅北口徒歩2分，旧代ゼミ）

見学会（案）：10月24日午後，前日シンポジウムの前

Aコース：石狩湾新港（LNG発電所建設工事等：開発局）

Bコース：北大紅葉散策（終日フリーで）

- (2) 第65回の海岸工学講演会の開催地について（佐々木幹事長）

- ・ 過去の開催履歴を基に検討した結果，中国・四国・西部（特に四国）を第一候補として打診し，6月の委員会までに候補を絞ることとした。

7. 第52・53回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催について

- (1) 第52回（2016年度）水工学に関する夏期研修会の準備状況（小笠原委員兼幹事）

期間：8月22日（月）～23日（火）

会場：秋田大学手形キャンパス

テーマ：東日本大震災後の津波防災

講師8名の人選と講義題目の提案があり，了承された。

- (2) 第53回（2017年度）（幹事：海岸工学委員会）の開催地について（佐々木幹事長）

- ・ 過去の開催状況を確認し，関西地区で開催する方向で地区幹事に検討をお願いすることとした。

8. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

- ・委員の交代：金沢大由比先生→東北大有働先生
- ・特集号の編集状況
 - フィリピン台風ハイヤン特集号（田島editor）9編で出版
 - 震災5周年特集号（高橋editor）18編/38編の全文を審査中
 - Climate Change特集号（森editor）16編/17編のアブストラクト審査中
- ・CEJ Award：選考手順および授賞論文候補を承認し，6月委員会へ上程することとした。
- ・JAMSTEC中西賞：選考手順および授賞論文候補を承認し，6月委員会へ上程することとした。
- ・CEJ Citation Award：過去の重複受賞を許さないことを前提として選考・承認され，6月委員会へ上程することとした。
- ・CEJ掲載論文の海岸工学講演会での発表枠について
発表希望者が少なく手間の割に効果が少ないことに加え，国際共同研究が進んでおり，対象論文の選定が困難などの理由から発表枠撤廃の提案があった。協議の結果，前向きに進めることとし，次回委員会，CEJ編集小委員会で継続協議することとした。

9. 研究小委員会等の活動報告

(1) 広報（川崎小委員長）

- ・討議集作成の労力はWeb入力で軽減しているものの，いまだに負担が大きい。回答がどれだけ活用されているか調査する必要がある。
- ・海岸工学委員会のサーバーを更新し，レスポンスが改善した。

(2) 沿岸域（重松小委員長）

11月，1月に研究会実施。4月23日に研究会を実施予定。

(3) 津波（高橋小委員長）

第4回委員会を7月に開催予定。2016年度海講の前日シンポジウムにおいて，最終アウトプット，データベースポータルサイトを提示し意見を聴取する。

(4) 波動モデル（柿沼小委員長）

九州大学応用力学研究所で採択された会議を12月に開催。印刷物の作成を準備中。次回は平日開催を検討，一人当たりの発表時間の確保が課題。

(5) 減災アセスメント（岡安小委員長（副委員長））

土木学会の重点研究課題に申請し，2年連続で採択。京大防災研の共同研究課題に提案し，採択された。具体像のモデル地区（焼津，松崎）を選定し，減災アセスメントの実地試験を計画中。2016年3月震災5周年記念シンポジウムで成果発表。2016年度全国大会で共通セッションを予定。

10. 小委員会の新設について

以下の2件の提案があり、6月委員会に諮ることを承認した。

- (1) 「水理模型実験における地盤材料の取り扱い方法に関する研究小委員会（仮）」（水谷委員）：
分野横断型研究が進んでいることから、水～地盤の相似則の取り扱いについて、知見・実験等を整理する。
- (2) 「地域研究活性化小委員会（仮）または 地域問題研究小委員会（仮）」（青木委員長）：
地域の海岸における種々の問題の解決と新たな価値の創造に寄与するため、地域でのネットワークづくりと共同研究を奨励・支援し、研究成果の情報交換の場を提供することで新たな課題の発掘につなげる。
→ 趣旨については異議がなく、コアメンバーの人選等、設置可能性の検討を踏まえ、可能と判断されれば6月委員会への提案準備を進めることが承認された。

11. その他

- ・「原子力発電所の津波評価技術」の改訂に伴う意見公募結果について（松山委員兼幹事）
土木学会Webサイトで公募したところ、7名16件の意見が寄せられた。
- ・全国大会・研究討論会について（中山副小委員長）
水工学委員会から「気候変動の適応研究をどのように検討していくか」を討論する企画を提案しており、海岸工学委員会からも話題提供をお願いしている。

記録（桐）